



市民自治をめざす 1000人の会 NEWS

発行 市民自治をめざす1000人の会 住所 〒271-0092 千葉県松戸市松戸1879-24 ほくとビル5F
Tel&Fax 047-360-6064 E-mail shinji-1000party@msj.biglobe.ne.jp
郵便振替口座 00130-0-76000 http://www5b.biglobe.ne.jp/~matsudo

住民投票を求める署名 31,997 人の想い受けとめ 松戸市議会は必ず 住民投票条例案の可決を！

3月24日、住民投票を実現する会は、住民投票条例の制定を求める28,940人の署名（2月22日に市選管に提出した署名数は31,997人、選管の精査で3,057人の不適格署名が出る）と住民投票条例案を市長に本請求しました。その結果、臨時市議会は右記の日程で開催されることになりました。

臨時市議会の日程

- | | |
|-----------|---------|
| PM1:00 | 本会議 |
| 4月8日 (木) | PM2:00 |
| 4月9日 (金) | 委員会 |
| 4月12日 (日) | AM10:00 |
| | 本会議 |

市議会は、この熱き住民投票を求める市民の声に耳を傾け、条例案を可決することが求められています。これまでになかった市民の関心が議会に注がれます。

■議員に働きかけを！ 臨時議会の傍聴を！

市民と議会のせめぎ合いが始まりました。46人の議員に働きかけましょう。市民の声を無視する議員は11月の市議選で落選を！4月7日までに、議員に電話・FAX・メール等で市民の声を伝えましょう。9日、12日の臨時議会にこれまでの傍聴数を大きく上回る傍聴を実現しましょう。それこそ、31,997人の声が生かされる道です。



■市民の声を受けとめ、住民投票条例案の可決を！

市長も議会も住民投票を求める署名行動が、松戸市政を根底から転換させるような大運動になるとは想像できなかったでしょう。署名行動が始まった頃には、多くの市民が、行政と議会からの情報提供が不十分なために「もう、決まったのではないか」と諦めていました。

ところが「住民投票で市民が審判しよう！」という呼びかけで事態は一変、市民の意識が大きく変わりだし、市政を変えるほどのエネルギーに転化していきました。

地域医療の中で市立病院の役割は… 新病院建設の見直しを！

千葉西総合病院総長 前田清貴

■時代とともに公的医療の役割は変遷

すべての医療の中心だった公的医療機関の役割は、現在では民間で取り組めない不採算部門を中心となってきたというのが日本の現状である。しかし、地域差は大きく、松戸市では東葛地区の中核病院として、市立病院の存在価値は高く、特に小児の集中治療センター、NICUを擁し、小児救急医療の最後の砦であることは言うまでもないことである。産科救急としても同様で、三次救急医療の重要な役割を担っており、二次救急を行っている千葉西総合病院でさえ、頼っているところだ。

■医療は弱い立場の患者さんのためにある

医療保険制度は弱い立場の患者さんを皆で救う社会保障であり、根底に社会主義的な考え方があるのが特徴だ。しかし、資本主義の体制では常にその矛盾を感じながらも、その解決法もなく、公的医療機関は先の見えない状況の中で、惰性と怠慢の赤字経営に陥っているのが現状かと考える。よって市立病院の経営は医師を初め、職員に「弱い立場の市民のために」と言う理念をしっかりと教育し、行動させることが肝要かと考える。これは現在の松戸市の職員全体にも言えることではないだろうか。



上本郷地区での建て替えを！

■なぜ、紙敷への移転か？

新市立病院建設に関して大事なことは「弱い立場の患者さんのために」建て替えをどこで行うのか、そしてその予算がどれほどのものかが問題になってくる。

まず紙敷は、松戸市の中心からはずれており、一分一秒を争う瀕死の患者にとっては死活問題だと考える。また建坪についても 3000 坪しかなく、入院患者を移動するにもエレベーターを多用しなければならず、さらに各フロアに常駐する看護師のマンパワーも分散し、医療サービスが低下するだけでなく、人件費も高騰するものと考える。よって三次救急を担う市立病院の立地条件としては不利な状況であると考える。

■ほんとに 250 億円も必要か？

その予算について検討するに、民間では考えられない法外な建築予算になっている。250 億円と言う予算は民間病院が 3 つも建つ位の予算である。千葉西総合病院では 608 床の新館建設を 75 億円にて計画している。これでは松戸市は放漫経営としか言いようがない。いくら市民の命を守る病院だからと言っても 3 倍以上の予算は高すぎる。

よって、紙敷への市立病院移転計画は見直し、今までの小児科や産婦人科などの救急医療を維持することが重要で、節約時代に合った上本郷地区での建て替えを考えるべきだと断言できる。

■松戸市が買い込んだ紙敷の土地利用について

紙敷の 3000 坪の土地については、多目的に利用することを市民の公募によって決めていくのも一つの方法である。例えば、高度先進医療の研究施設、学校、国際学会も開けるようなイベントホール、ホテルなども松戸市には必要な施設として検討すべきである。

佐藤みのるの政策提言と行動 市民が変わった！署名行動から学ぶ

市民自治をめざす 1000 人の会の署名運動と、住民投票を実現する会との共催で「新病院建設問題と署名活動」をテーマに常盤平（1/9）、新松戸（1/11）、松戸（1/13）の 3 地域で懇談会を開催したところからスタートしました。

● 寒風吹き荒れる中での訴え・署名行動

1 月 12 日、早朝の駅頭宣伝から本格的な市民への訴えが始まりました。2 月 15 日までの約 1 ヶ月間の取り組みでは、駅頭・繁華街宣伝・署名行動が合計 32 回（参加者延べ人数 175 名）、戸別訪問 4 回（参加者延べ人数 28 名）、火曜日から金曜日まで街宣車による賛同署名の宣伝活動の専任者が 2 名でした。小さな市民団体が取り組んだ活動で、集めた署名数は 2,591 人でした。私は、この署名行動にほとんど参加し、集めた署名は 425 人でした。この署名行動で、市政に関すること、新病院に関する多くの意見を聞くことができました。

● 署名行動の中で

駅頭宣伝では、乗降で忙しく寒風の中でもチラシを受け取り、通り過ぎた方でも戻って来て署名してくれる方が多かったです。さらに中盤以降では、川井市長の 5 選出馬表明を契機に、市長への不満を理由に署名に協力する市民が多くなりました。

戸別訪問では、地域や年齢により病院問題の捉え方に様々なことを教えられました。市立病院に無関心な方々、市民を代表する議会や行政が決めたことに反対するような事はできないと考える方々。地域エゴで署名運動しているのか？等。一方、新聞記事などで「住民投票」の署名活動を知っている方々は積極的に署名され、さらには「ご苦労さん」「頑張って下さい」と励ましてくれる方いました。

印象に残っていることは、ご夫婦が共に 90 代の方で、病院にいくこと自体が大変なのに、病院が新しくなることも必要だろうが、医者に診てもらうことがもっと切実だと話してくれたことで

す。高齢化社会における地域医療のあり方が問われたと思います。

● なぜ移転しなければならないのか？

市立病院の役割は、松戸市民ばかりか、東葛北部地域住民の第 3 次救急医療機関です。この病院を市内の中心・上本郷地域から南の端・紙敷に、なぜ移転させるのか今でも理解ができません。建設コストも異常に高く、妥当だと考えられません。それだけに、住民投票で市民がその妥当性を審判できる仕組みづくりが重要だと思います。臨時市議会で議員が住民投票ができる条例案を可決するように働きかけます。署名行動にご協力いただいた市民のみなさんに感謝し、臨時市議会に向けて、議員への働きかけをお願いします。

1000 人の会政策担当・牧の原在住
佐藤みのる



新松戸店前で訴える佐藤みのるさん

住民投票条例署名運動の受任者になつて

「受任者」って何したの？ 1000名の受任者が集めた署名が31,997人

■ 病院移転が既定の事実のごとく報じられる中で

夫は障がい者（脳梗塞による失語症）です。10年前、病院が近いことで居を定めました。市民病院で一度お会いしたらその人柄にひきつけられて、熱心に指導されるST（言語聴覚士）の先生に出会いました。現在もボランティアで障がい者の会をはじめられて指導して下さる先生のお陰で、夫は生きがいある日々を過ごしています。

病院には通院・入退院でお世話になっており、何よりも近いことで助かっております。病院移転が既定の事実の如くに報じられて、これは大変だと受任者になりました。

日頃は顔を合わせる事が少ないマンションですが、一戸一戸お尋ねして署名をお願いしました。みなさま病院移転をよくご存知なく、これを機に知っていただき賛同していただきました。また、いつもお会いしている障がいのある方も署名して下さり、背中を押していただきました。身近かな病院として現在地に建て替えられますよう、先ずは住民投票条例が実現されることを心から願っております。

篠崎路子（上本郷在住）

■ 私の聞いたみなさんの声を届けます

- ① 大多数の人が、移転はすでに決まったものとして受け止めていた。
- ② 署名をもらうために詳しい説明と移転先の様子など話すと”そうゆうことだったのか”と分かってくれた。
- ③ 松戸市に住民投票条例がなかったことに驚く。
- ④ 早速、現地を見に行った人もいて関心の高さを感じた。
- ⑤ 松戸市の現状は分かったが、個人的には近くになって新しくなることの方が良いと言う意見の人

もいた。

⑥ 先にパンフをゆっくり読んでもらった上で署名をお願いしたことで、これから動きにも目を向けてもらえると思う。

⑦ 20代の若い人たちからも何人もの署名をもらつたが、松戸市のことに関心をもってもらえるきっかけになったと思う。

吉田 弘子（松戸新田在住）

■ 住民投票条例賛同署名の受任者になって

率直な感想として、皆さんがこれ程市立病院移転に深く関心をお持ちになっているとは思いませんでした。署名を依頼した方は全員快諾して下さいましたが、驚く事に、人伝に私が受任者と知ってわざわざ数十人の方々が署名に来て下さいました。

『改築で充分なのでは？』『今まで市立病院に通っていたけどあんなに遠くなるなら違う病院探さなきゃ』『移転予定先の近くに市立東病院があるんだから、何も市立病院が移転しなくてもいいのに』『市立病院は市民がより通院しやすい所にあるべき。』『通院中の患者、市民の思いを無視した移転案』『あの移転先じゃあ渋滞で救急車での搬送が大変だよ』



次々と署名していただく市民（北松戸駅前で）

等々。

これ程まで其々の反対意見をお持ちとは。松戸市民の皆さまは病院移転には大反対と確信しました。

青木英則（栄町在住）

■市民力が市政を変える日をめざして

今回、受任者の一人として積極的に関わらせていただきました。市民自治をめざして、私たち1000人の会としては11年余の活動の実績にいささかの自負もありましたが、今回の住民投票条例制定への取り組みは松戸でも初めての取り組みで多くのことを学びました。

早朝の頭宣伝や繁華街での宣伝で何度も「お訴え」をさせていただき、賛同の署名をいただきました。市民のみなさんの関心も高く、日増しに手応えも良くなり、私たちもやる気が増してきました。

今回一番やりがいがあり、いろんな勉強になったのは受任者としての個別訪問を通しての署名活動でした。直接お一人おひとりと面と向かってお話しをさせていただき、お話しをお伺いする中、本当にさまざまの「感想」「声」「意見」を聞きました。松戸市が情報公開と市民参加の市政を行って来なかつたことへの共感を語られる人たちが多くいらっしゃいました。一方「絶望感」を持っている方の嘆きも聞きました。1ヶ月間の署名活動は大きな成果をもたらすことができ、市民運動をやってきて、久しぶりに充実感を持つことができました。

松戸市議会は住民投票条例案を良識を持って可決せよと、次の運動に力を入れていきたいと思います。

小西正人（五香在住）

■「金大中氏を救え」の署名運動を思わすような凄い反応

新病院整備基本計画の賛否を問う住民投票実現のための署名運動、その受任者の一人として行動に加わりました。これまでいろいろな署名に取り組んだことがあります、今回の反応は1980年

の「金大中氏を救え」の署名運動を思わすような凄い反応があり、関心の強さを感じました。

「署名したいと思っていた」と言われた方が何人もおられました。同時に署名された人々が「川井市長はいらない！」と川井市長への失望・不満・批判をあらわに口にされたことです。

31,997名の署名を足がかりとして市議会、市長に強く働きかけ住民投票を実現しようではありませんか。

渡辺一夫（岩瀬在住）

■「受任者」という耳慣れない言葉

住民投票条例を実施するための署名運動を行うにあたって、「受任者」という耳慣れない言葉を聞きました。「署名活動を行う人」のことなのですが、その人が、なんと市の選挙管理委員会に登録した上でなければ活動ができないと聞いてびっくり。署名をする人も、生年月日、印鑑または捺印までも必要です。通常の署名活動と比較して極めて厳密に取り組まれなければならないものでした。

1月15日から2月15日までと、一番寒い時期と重なり、氷雨にあったり、空っ風に吹き飛ばされたりの中での活動でした。しかし、署名の呼びかけには、おもしろいほど市民の皆さまが応じてください、市立病院のことから、市政全般にわたった話して署名中も会話が弾みました。一人で5分、10分と話しこむ人の姿も見られ、いつもは長く感じられる1時間30分ですが、あっという間に過ぎていきました。今回の署名運動が真の市民自治のスタートとなればすばらしいことだと思います。

今川和子（新松戸在住）

丹羽護さん（牧の原在住）の川柳集から

〈新病院計画〉

- ・東松戸の地主が喜ぶ新病院
- ・病院で松戸市政は自爆する

〈子どもの貧困〉

- ・春休み 欠食児童の断食行
- ・新学期 給食でやっと食いつなぎ
- ・進学も修学旅行もあきらめた

6月松戸市長選にあたって、1000人の会は 前田きよたか氏（千葉西総合病院総長）を支持

松戸市長選は、6月6日公示、6月13日投票です。住民投票条例署名運動の盛り上がりの中で、住民投票が実施されるかいなかに関わらず、市立病院の移転・建設の是非を問う市長選になると思います。

●川井市長の5選阻止を！なぜ、本郷谷氏を支持しないのか

市長選の行方は、川井市長の5選出馬、杉浦誠一氏（市議、保守系無所属）と末松裕人氏（市議、保守系無所属）の出馬が検討されています。また、前田きよたか氏と本郷谷健次氏（市議）が民主党の推薦を要請し、出馬の準備をされています。民主党は、5月に2人の一本化をめざすとしています。

こうした中で、私たち1000人の会は、これまで川井市政を厳しく批判してきた経過を踏まえ、5選をめざす川井市長ばかりか、川井市長を支えてきた杉浦氏、末松氏、本郷谷氏は論外との立場を取りました。本郷谷氏は、4年前に川井市政に対抗するために、いくつかの政党や多くの市民運動に関わる市民有志が支持し、1000人の会も全力で支援しました。結果は分裂選挙で落選、その後市議選に出て当選。市議になったこの3年余、川井市長に対決するどころか、予算・決算すべてに賛成するという「変身」をしていきましたので論外です。

●市民参加の市政づくりで、前田きよたか氏と一致

私たち1000人の会では、反川井、本郷谷不支持の立場から、前田きよたか氏を迎えて、2月28日、3月14日の2回、どのような地域医療の政策と市政への考え方を持っているのかお聞きし、1000人の会からも13項目の政策提言を提出して懇談会を持ちました。この2回の懇談会を踏まえて、3月21日には1000人の会の態度決定をするための緊急懇談会を開催したところです。

この緊急懇談会で、市長選をめぐる情勢、2回の懇談会で前田きよたか氏をどう評価できるのかを中心に論議を重ねました。その結果、地域医療に対する考え方、市立病院の移転・建設問題に対する判断、市民参



画の市政運営、市政全般の政策について、人の意見に耳を傾ける姿勢等々から判断して、「支持」することができる候補予定者との判断に至りました。

3月28日には、前田きよたか氏と3回目の懇談会を持って、「松戸市長選にあたっての見解と要望」を提案し、合意に至りました。よって、1000人の会では、無所属で出馬予定の前田きよたか氏を支持して、市長選を戦う決意を固めたところです。この懇談会に参加できなかった多くの仲間のご理解をお願いします。（13項目の提案と『見解と要望』が必要な方は、一報ください）

●民主党は候補者一本化を！

投票日まで2カ月半です。この間に私たち1000人の会が取り組む活動は、当面は、市民運動の中で、課題別・地域別の「松戸市政をどう変えたいのか」をテーマに前田きよたか氏との懇談会の開催をめざします。また、自民党が分裂する中で、市政を変えたい勢力が統一した候補者を擁立するためにも、民主党に前田きよたか氏で一本化の推薦をすることを要請していきたいと思います。

前田きよたか氏のプロフィール

▼ 57歳、沖縄生まれ▼秋田大学医学部卒業▼秋田大学・講師、酒田市立酒田病院・外科部長▼千葉西総合病院総長・鎌ヶ谷総合病院院長

漂流する米軍・普天間基地と辺野古新基地建設 沖縄県民の声に耳を傾け、連帯を！

普天間「移設」をめぐって、民主党政府による沖縄県内への「移設」圧力が迫っている。

辺野古への「移設」案は日米間で合意した現行計画とされ、これを変更することは日米関係を危険水域にさらすものだと評論する人々がいる。

しかしこれはウソだ。戦後65年間、米軍基地の重圧下にさらされてきた沖縄がいまその継続をめぐって危険水域にある----というのが真実である。

●危険水域の現実

沖縄県民は「県外・国外への移設」で一致しており、県議会は全会一致で「県内移設」反対だからだ。辺野古を含む名護の市長は、辺野古へもキャンプ・シュワブ陸上へもどちらの移設にも反対だ。地元の辺野古・久志・豊原区はいずれも陸上案反対。

普天間駐留の米海兵隊はアジアの「不安定」諸国からの攻撃に対して抑止力になっている、と本気で考えている人は多い。しかしイラク攻撃などで年中出動しており、駐留人員すらわからない。わかっているのは定員(数)=12,000だけ。抑止力にはまったくならない存在だ。「紛争」地に戦闘で殴りこみをかける、これが海兵隊である。

沖縄は地政学的に太平洋のキー・ストーンの位置にあり、そこに米軍がないと攻撃される、と考えている人もいる。これもウソだ。第二次大戦後に、アジア諸国をにらむ存在として沖縄が位置したことがあった。しかしそれは戦後の米軍にとって、にすぎない。地政学的位置だというのは都合のいい「理論」である。しかも今日では米軍にとって沖縄の軍事的比重は低下しており、これまでの「前方配置」から

後退中である。

●軍隊も基地もいらない！

沖縄では基地経済で潤っているから、基地がなくなれば成り立たないという俗論も未だにのさばっている。しかし今では軍用地収入ははるかに観光収入を下回っている。

安保条約と米軍は必要だという人は日本人には多い。しかし戦後の経済成長・経済発展は沖縄に軍事基地を押しつけておいて実現したものだ。必要だというのなら、自分のところに持つて来るべきだ。自分だけは安全圏に身を置いて「軍隊も基地も必要だ」？

沖縄は今までそれを背負わされてきた。だから今からは、必要とする人々が引き受けるべきだ。それとも、これからもずっと背負うべきだ、というのだろうか？

国会議員の中には、自分の公約さえ踏みにじつて辺野古陸上案、嘉手納統合案の県内移設論者もいる。沖縄県知事は「県内移設は極めて厳しい」と言っておきながら、県内移設反対を明言してはいない。3月17日の早朝には防衛大臣と「極秘会談」した。

来たる4月25日には100,000人規模の県民大会、5月16日には普天間基地包囲行動がある。「県内移設粉碎！」の強烈な沖縄の声が響く。それを私たちは孤立させてもいいのだろうか？

吉田正司(沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック、栄町在住)



ハツ場ダム、今が正念場

昨年の夏、総選挙で自民党から民主党への政権交代が実現し、民主党は『税金の無駄な使い方』や『官僚政治からの脱却』とともに『ハツ場ダム建設の中止』を真っ先に打ち出した。

現地の住民も喜んでいることだろうと思ったのだが、現実はものすごい反発と怒りの声であふれていたテレビからの映像は、高くそびえたつ橋脚と地元の『建設中止反対』の声ばかりであった。『75%できているのに…あそこまで造っているのに…』と無知な知事のコメントもあり『中止になって良かった』との声はかき消されていた。

●自然と人々の心を壊して

現地の住民の心情は複雑だろうし、無理もない話だ。『ハツ場ダム建設設計画』が決まって今年で58年目を迎える。あそこまで自然破壊をしていながら『ダム本体』の工事には至っていない。完了工期も予算も大幅にふくらんだ。

なかでも、自然と融合した先祖からの墓石や石仏などは見るも無惨だ。“移転しました”といつても、真新しい無機質なコンクリートの上に等間隔に並べ置かれているだけである。自然とともに人々の心も壊してしまっているのに経済が優先され、複雑に仕組まれた社会構造を変えることは一筋縄ではいかない事を痛感した。

●控訴審でも闘う！

2004年の秋に『ハツ場ダムをストップさせる千葉の会』や一都五県の反対する仲間とともに住民監査請求という裁判を起こし活動してきた。そして今年1月19日千葉地裁で結審があり、いつにもまして大勢の傍聴人で大法廷はうまつた。

裁判長からの言い渡しは、ほんの三分ばかりで『棄却却下』などの言葉から負けたことがわかった。『不当判決だ』の声もむなしくひびき、ため息がもれた。

その後会場を移し、弁護団の説明を聞いた。もちろん控訴審で闘うことが全会一致で決まった。民主党政権となり、ハツ場ダム建設中止となつても工事は進んでいる、なぜ止まらないのか？

●生活再建の早期実施を求めて

治水と利水両方ともにもう必要はなく、洪水対策にもならないと明白なのに、公共事業をやり続けることこそが目的となって無駄な税金がつぎ込まれている。地元での『建設中止反対』の署名が5万筆以上集まつたとのこと。ハツ場ダムをストップさせる各都県の会では、この5万筆を越せる数の署名（現地住民の生活

再建の早期実地を求める署名）を集める活動をはじめている。今やるべきことは目に見える形での署名活動だと思っている、今が正念場なのだ。

柘植扶佐子（ハツ場ダムをストップさせる千葉の会、東平賀在住）

政策研究＆イベント掲示板

●自主講座「市民自治」3期講座開校（第1回）

▼日時／4月21日（水）午後7時から ▼会場／中央学院大学6号館622号室 ▼テーマ／自治体と事業仕分け ▼講師／前我孫子市長・福嶋浩彦氏 ▼参加費／市民1000円 ▼主催／自主講座「市民自治」世話人会（047-360-6064吉野）

●新松戸チャリティフリーマーケット

▼日時／4月25日（日）午後10時から ▼会場／新松戸中央公園 ▼出店／1000人の会では、川場（本場）のこんにゃくと東風さん宅の朝取り竹の子の販売 ▼主催／フチーマーケット実行委員会（047-341-3909）

●2010年松戸憲法記念日の集い

▼日時／5月3日（月・祝）午後2時から ▼会場／松戸市民会館ホール ▼講演／ノーベル賞受賞者・益川敏英さん講演会 ▼参加費／500円 ▼主催／2010年松戸憲法記念日の集い実行委員会（070-6654-8261）

●1000人の会・韓国平和ソア（光州編）事前学習会

▼日時／5月8日（土）午後1時30分から ▼会場／松戸・ほくとビル4F会議室 ▼テーマ／光州事件とは何であったのか ▼講師／黄英治（ファン・ヨンチ）さん ▼主催／1000人の会（047-360-6064吉野）

●森田県政検証この一年

▼日時／5月8日（土）午後1時30分から ▼会場／柏中央公民館集会室 ▼問題提起／吉川ひろしさん（無所属）、湯浅和子さん（民主党）、小宮清子さん（社民党）の3県議 ▼主催／みどり千葉（047-360-6064）

●1000人の会・まつさとウォッチング

▼日時／6月26日（土）午前8時・松戸市民会館前集合 ▼コース／丸木美術館（沖縄展企画）&吉見百穴見学 ▼参加費／3,500円（昼食代除く） ▼定員／25名（先着順） ▼主催／1000人の会・まつさと（047-497-5008龍）